

ノッカルは、地方ならではの地域資産を最大活用し、住民・自治体・交通事業者・外部企業で創った新しい地域交通

ノッカルのポイント

地域のモビリティ資産

8000台のマイカー(人口1万人)

- ・8000台の車両とドライバー
- ・8000台分の移動と空席
- ・今後はスクバスや福祉バスも

※町にバス3台/タクシー10台のみ

地域のコミュニティ資産

強いコミュニティ文化

- ・ノッカルドライバー＝地域貢献
- ・旧小学校単位での自治会
- ・助け合いや寄り合いの文化

※助け合いとして積極的に参加

地域の既存交通の資産

使い慣れた既存交通アイテム

- ・バスの停留所をそのまま活用
- ・既に発行済みのバス券の活用
- ・バスダイヤを補完するノッカル

※住民が知っているサービスの延長線に

地域の事業者の資産

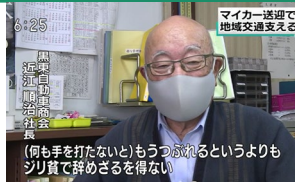
地域の交通のプロと一緒に

- ・地元の黒東タクシーが運行管理
- ・近江社長は町の移動の生き字引
- ・タクシー/バスのノウハウ活用

※町唯一の交通事業者でバスも管理

地方ならではの地域資産を最大活用し、交通事業者と共に創る「公共ライドシェア」ともいえる

ノッカルを産んだ背景は、多くの地域社会にあるご近所同士の助け合い文化。



共助だから生まれる「地域全体での共創」

あくまでも元々存在した助け合い文化をデジタルで見える化

- ・助け合う文化はあったが近年は衰退、仕組み化することで共助しやすく
- ・地域の地域による地域のための交通

バスやタクシーとの共創デジタル化運営

- ・ノッカル単体でなく地域交通全体再編へ
- まずはバックエンドの共通デジタル化

共助だから生まれる「低コスト」

運賃600円定額/ドライバーは200円

- ・バスとタクシーの中間のサービスレベル&運賃を意識
- ・定額600円を自治体(提供者)/黒東自動車(運行管理)/ドライバーで按分
- ・ドライバーは手間賃程度も不満なし → ドライバーさんは地域貢献として誇りを持って運行

1日10運行程度で黒字化も可能

- ・赤字要因の人件費/車両費が圧縮、低コストで補完的な導入が可能

共助だから生まれる「心理的負担の軽減」

元々予定があった移動にノッカル仕組み

- ・移動予定をアプリで登録→ダイヤとして表示、一緒に行きたいユーザーがノッカル
- 物理的&心理的な安心の担保

- ・物理的な安全性はシステムや保険で担保→隣人乗せて安全運転。事故ゼロ
- ・元々行く予定：ドライバー負担が軽い、ついでに乗るだけ：ユーザーも気楽 → 隣人の車。車両不満ゼロ



地域のノッカルドライバー
マイカーあり
お出かけ予定あり

地域コミュニティ
昔からある「ついで送迎」

地域のノッカル利用者
お出かけしたいけど…
マイカーなし



共助だから生まれる「地域活性」広がる共助サービス

1番の目的地は娯楽施設

- ・最も多い移動が娯楽目的=ついでに一緒にだから気兼ねなく
- ・4年ぶりに外出した90代/透析での入院が通院が可能になども

こどもの移動、地域教育サービスへの拡がり



課題

- ・地元との競争ではなく共創を生み出す仕組みに投資を：新しいものではなく、既存資産を活用。外部ではなく、地元で馴染む設計。
- ・地域公共交通会議等でのスムーズな調整、自治体エリアや空白地帯を超える生活に根差した運行、教育や福祉車両の活用規制など。
- ・地域交通全体を地域の背骨を支える「公共財」として捉えられないか？競争ではなく共創。地域公共交通会議等の調整コストも削減可？

ノッカルが地域社会に根付く本質